令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	一般財団法人ちりゅう芸術創造協会
施設名	知立市文化会館（パティオ池鯉鮒）
内定額	5,537　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型(公演・人材・普及)が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　　業　　名	実施日程	実施会場
普-01	アートで育む“ひと・こころ・まち”プロジェクト「こどもアートふれあい事業」for 小中学校	通年	学校体育館、かきつばたホールなど
普-02	アートで育む“ひと・こころ・まち”プロジェクト「こどもアートふれあい事業」for幼保育園	通年	園遊戯室
普-03	パティオ多文化共生事業2025　パティオちりゅう知立団地放課後クラブ	5月～2月	昭和児童センター
普-04	ちりゅうシアター・スタート2025　パティオDE夏休み	7月～8月	かきつばたホール他
普-05	パティオバリアフリー事業2025　東京演劇集団風「バリアフリー演劇『ヘレン・ケラー ～ひびき合うものたち』	7月13日(日)	花しょうぶホール
普-06	知ってふれあう知立の伝統芸能	7月6日(日)、11月9日(日)　他	花しょうぶホール　他
普-07	ちりゅう大好きプロジェクト2025　第14回しみん劇『いちにのさーん』	6月28日(土)、29日(日)	花しょうぶホール

（2）〔基礎データ〕

※　交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※　実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	77	61	69
	公演事業	9	4	3
	（内、本助成対象事業本数）	0	0	0
	人材養成事業	22	12	14
	（内、本助成対象事業本数）	14	0	0
	普及啓発事業	33	29	36
	（内、本助成対象事業本数）	24	24	29
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　共催、展示事業など	13	16	16

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	179	201	190
	ホール名：かきつばたホール　座席数：1004	86	85	80
	ホール名：花しょうぶホール　座席数：293	93	116	110
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	25,060	21,485	23,493
	公演事業	4,497	1,868	2,611
	人材養成事業	1,677	1,388	1,843
	普及啓発事業	10,431	12,824	12,285
	共生社会事業			
	その他　内容：共催、展示事業など	8,455	5,405	6,754
	貸館事業入場者・参加者数	64,712	59,800	65,532
	その他　内容：ホール以外の練習室など利用	79,387	95,378	74,097
	計	169,159	176,663	163,122
開館日数		305	306	306
施設の利用可能日数　（＝365－（保守点検日数+休館日数））		305	306	306
施設の利用日数		305	306	306
施設の利用率(%)　（＝利用日数/利用可能日数）		100.0%	100.0%	100.0%

備考	

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	9	10	4,497	2	3	1	3	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	7	10	2,960	2	3	0	0	1	0	1
	貸館公演	164	178	64,712	9	38	20	9	7	6	75
	計	180	198	72,169							
令和6年度	主催公演（※1）	4	4	1,868	2	0	0	1	1	0	0
	共催・提携公演（※2）	3	4	1,881	0	2	0	0	0	0	1
	貸館公演	201	201	59,800	17	61	24	3	2	6	88
	計	208	209	63,549							
令和7年度	主催公演（※1）	3	4	2,611	1	1	0	1	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	6	8	3,365	0	3	0	1	1	1	0
	貸館公演	174	191	65,532	9	59	28	0	0	6	72
	計	183	203	71,508							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	一般財団法人ちりゅう芸術創造協会
施設名	知立市文化会館（パティオ池鯉鮒）
内定額	5,537　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業			
人材養成事業			
普及啓発事業	【指標①】事業に対する満足度について、学校・園等の事業担当教諭・保育士によるアンケートにより計測	①普-01・02：90%以上	①普-01　100%、普-02　100% ※「満足、どちらかと言えば満足」と回答した割合
	【指標②】事業参加者、公演来場者の満足度についてアンケートで計測	②普-03：85%以上、普-04：85%以上、普-05：90%以上、普-06：85%以上、普-07：90%以上	②普-03：100%、普-04：97.5%、普-05：100%、普-06：97.3%以上、普-07：97.5% ※「満足・どちらかといえば満足」、「楽しかった・どちらかといえば楽しかった」等と回答した割合
	【指標③】事業来場者、公演鑑賞者・参加者の総人数を計測	③普-01：6,000 人、普-02：2,500 人、普-03：150 人、普-04：883 人、普-05：137 人、普-06：320 人、普-07：650 人	③普-01：6,152 人、普-02：2,587 人、普-03：142 人、普-04：1,318 人、普-05：147 人、普-06：326 人、普-07：257 人
普及啓発事業	【指標④】事業参加者、公演来場者の新規来場者数の比率をアンケートで計測	④普-04：17%以上、普-05：20%以上、普-06（保存会公演）：15%以上、普-07：30%以上	④普-04：40.0%、普-05：6.3%、普-06（保存会公演）：70.6%、普-07：23.5% ※「初めて」来館した割合

	【指標⑤】事業参加者、公演来場者のリピーター数の比率をアンケートで計測	⑤普-04：63%以上、普-05：60%以上、普-06（保存会公演）:65%以上、普-07：50%以上	⑤普-04：60.0%、普-05：93.8%、普-06（保存会公演）:29.4%、普-07：76.5% ※「2 回以上」来館したことがある割合
	【指標⑥】関係者（受け入れ先等）による評価	⑥普-01・02・03:「また実施してもらいたい」との回答が 90%以上	⑥普-01：100%、普-02：100%、普-03：100% ※「また実施してもらいたい」と回答した割合
	【指標⑦】パティオ登録アーティストの活動への評価	⑦普-01・02・04：回答者からのアンケートの高評価選択または高評価コメントが回答者全体の 90%以上	⑦普-01：100%、普-02：100%、普-04：100% ※「また呼びたい」の回答又は公演に対する評価した割合
共生社会事業			

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	

人材養成事業	
自己評価	

普及啓発事業	
自己評価	【指標①】いずれにおいても、「非常に満足した」「満足した」と回答する、担当教諭・保育士が全員であり満足度の高い事業が展開できた。 【指標②】すべての事業において「満足した」「ほぼ満足した」「良かった」「楽しかった」などと、事業に対する満足度について高評価を示す回答の層が目標値を達成し満足度の高い事業とすることができた。 【指標③】普-03・07 を除き、目標値を達成することができた。 特に普-04 事業については、目標値を大幅に超える来場者、参加者を得ることができた。これについてはSNS 広告（インスタグラム）が有効であった。 【指標④】普-05・07 を除き、目標値を達成することができた。 劇場未経験者をメインターゲットとする普-04 のほか、知立の伝統芸能を発信する事業において想定を超える新規来場者を獲得する事ができ、事業の波及効果の拡大を図れたと評価する。 【指標⑤】普-05・07 について目標を達成し、普-04・06 については【指標④】のデータの傾向を反映しリピーター率は未達成であった。 未達成の事業は【指標④】においては目標を達成しているため、多面的な見方をすれば新規来場者を獲得する事業の認識を含め指標設定について改める必要がありそうである。 【指標⑥】普-01・02・03 のすべてにおいて受け入れ先の担当教諭、担当保育士、担当職員からそれぞれに事業実施に対しての継続の希望を 100%得られた。引続き各教育機関と連携し事業を進めていく。 【指標⑦】当会館のアーティストバンクである登録アーティストに対する評価については、いずれも 100%の高評価を得ることができた。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・（国際プレゼンスの向上）海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・（国際交流）アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・（新たな創客への取組）在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
【指標①】外国ルーツの児童参加者数	①普-03：毎回 10 人以上、のべ 100 人以上	①普-03：10 人以上参加全 10 回中６回、のべ 104 人参加
【指標②】外国ルーツ家庭からのアンケート回答において高評価をえる	②普-01・03：高い評価が全体の 80%以上	②普-01：85%、普-03：100% ※参加について「良いことだと思う」、「いいことだと思う」という評価をした割合
【指標③】外国人の関心層の計測指標としてホームページのアクセス数	③ホームページ（英語版）アクセス数の 5%増加 ホームページ（ポルトガル語版）アクセス数の 10%増加	③ホームページ（英語版）アクセス数の 2.2%増加 ホームページ（ポルトガル語版）アクセス数の 58.3%減少 ※関連ページサイトの表示回数の総数を比較

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	【指標①】実施施設の特性上、施設への出席児童の人数が変動するため、毎回１０人以上の目標値は一部の日程で不達成であったが、平均値としては目標値を達成したものと評価する。 【指標②】普-01・03 事業でともに目標値を達成した。今後アンケートの WEB 化を推進していく計画であるため、データ集計への影響が懸念点としてあげられる。 【指標③】目標値についていずれも達成できなかった。昨年度の英語版サイトとポルトガル語版サイトとでは、ポルトガル語版サイトが 1.45 倍閲覧されていることをふまえての目標設定であったが、数値の傾向より、新たに施設を利用する、あるいは会館を利用する層が減少している（リピーターのみ）という傾向が示唆されるものと評価する。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・（文化拠点）地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・（地域連携）地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・（児童生徒への機会提供）次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※２）	評価指標：ホールを含めた貸館利用全体の満足度を調査する 目標：「満足している」「やや満足している」の回答が 90%以上 実績：93.9%
	・自由設定の観点（任意）（※３）	

（※２）・（※３）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※４）	目標（値）（※５）	実績（値）
【指標①】関係者（受け入れ先等）による評価（会館の重要度）	①普-01・02・03：「会館の実施する文化・芸術活動が地域にとって重要」との回答が 80%以上	①普-01：100%、普-02：100%、普-03：100% ※「会館の実施する文化・芸術活動が地域にとって重要」と回答した割合
【指標②】関係者（受け入れ先等）による評価（受益者の前向きな行動変化）	②普-01・02：「鑑賞・参加後に前向きな行動が増えた」との回答が 90%以上、普-03：「鑑賞・参加後に前向きな行動が増えた」との回答が 80%以上	②普-01：100%、普-02：93.8%、普-03：83.3% ※「増えた」、「どちらかと言えば増えた」と回答した割合
【指標③】事業参加者の文化芸術への関心についてアンケートで計測	③普-01：「関心が高まった」との回答が 85%以上	③普-01：89.3% ※「関心が高まった」と回答した割合
【指標④】参加者・来場者の内、知立市民のみを対象とし、地域の文化的な環境への満足度についてアンケートで計測	④普-05・06・07：「満足している」との回答が 80%以上、普-04：「満足している」との回答が 90%以上	④普-04：90%、普-05：100%・普-06：94.1%、普-07：90% ※「満足」「ほぼ満足」と回答した割合
【指標⑤】講師による、参加者の行動変化の観測と評価	⑤普-03：毎回の振り返りで、コミュニケーションの創出や、他者への理解度、寛容度など、概ね前回より向上する。成果と今後の課題を把握する	⑤普-03：年間 10 回のすべてで、振り返りを実施して、子どもたちの印象や行動などを記録し、次回にフィードバックをすることができたと評価する
【指標⑥】鑑賞者の行動変化による評価	⑥普-01：「他者との交流について意欲が増した（今日の感想や、自身の悩みなどを誰かに話したくなった）」との回答が 80%以上	⑥普-01：87.5% ※設問に「はい」と回答した割合
【指標⑦】事業協賛者数	⑦普-01・02・03：のべ協賛者数 50 件	⑦普-01：33 件、普-02：33 件、普-03：6 件の、のべ協賛者数 72 件
【指標⑧】連携する小中学校数	⑧普-01・02：市内幼保育園 16 園、市内小学校 7 校（全校）、市内中学校 3 校（全校）、近隣支援学校 2 校	⑧普-01：市立小学校 7 校、市立中学校 3 校、近隣支援学校 2 校、普-02：市内幼保育園 16 園の全てと連携した

【指標⑨】バリアフリー事業の活動周知として劇場、近隣社協、近隣支援学校及び事業協賛者へ招待実施数とその招待に応じた人数	⑨普-05：劇場、近隣社協、近隣支援学校、協賛者等への招待案内数 600 件、うち応招待者 50 人	⑨普-05：劇場、近隣社協への招待案内数 260 件、うち応招待者 1 人
【指標⑩】協力・連携する社会福祉協議会・福祉団体数	⑩普-05：協力・連携する社会福祉協議会・福祉団体数 16 団体	⑩普-05：協力・連携する社会福祉協議会・福祉団体数 14 団体
【指標⑪】県内実演家、実演団体による公演数	⑪普-01・02・04：合計 40 公演以上	⑪普-01：18 公演、普-02：20 公演、普-04：5 公演の合計 43 公演
【指標⑫】知立市への愛着心が向上した、知立市について関心度が高まったとする層をアンケートで計測	⑫普-06・07：（市民）愛着心向上した 90%以上、（市民以外）関心度が高まった 80%以上	⑫普-06：（市民）82.4%、（市民以外）72.7% 普-07：（市民）70%、（市民以外）56.7%

（※４）・（※５）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	【指標①】普-01・02・03 の全ての事業において「会館の実施する文化・芸術活動が地域にとって重要」との回答が 100%得られたことから、地域にとって必要とされる施設と評価いただけた。 【指標②】子どもたちへのアウトリーチ事業の展開の一つとして、文化芸術体験による効用として前向きな言動につながる事を期待し計測したもので、すべて目標値を達成した。 【指標③】子どもたちへの文化芸術体験による効用として、文化芸術への関心度の向上につながる事を期待して設定した。子ども達自身に評価してもらったところ目標値を達成し、文化芸術に対する関心度の向上に寄与した。 【指標④】すべて目標値を達成することができた。 各事業への来場や参加による印象が、地域の文化環境への満足度とリンクしていると評価したい。 【指標⑤】昨年度、制作上の課題であった講師選定の解決により、プログラムについての充実化を推し進めることができたと評価したい。講師と子ども達の関係性が回を重ねる毎に、進展している事が振り返り等から示唆されるので、本アウトリーチプログラムを継続しつつ多文化共生事業のあり方を引き続き探っていく。 【指標⑥】本指標は【指標②】で計測した内容の、鑑賞者自身の自己評価としての側面があり、担当教諭からみた評価と、子ども達が自ら感じている評価にずれがないことが示唆された。文化芸術活動の体験を通して、学校や家庭等の場で社会性の成長が図られることを期待する。 【指標⑦】延べ件数という観点で、目標値を達成した。協賛事業の精査を進め「子ども対象の社会包摂事業」に絞って展開することで、劇場としての姿勢も示すことができたと評価する。 【指標⑧】市域のスケールメリットを活かして、今年度もこれまで同様に会場面で実施可能な市内の幼保育園、小中学校全ての教育機関と連携、事業を開催できた。また、地域の中核劇場という視点より市外にある支援学校 2 校への展開も、大事な連携先として今後も継続していく。 【指標⑨】【指標⑩】いずれも目標値を達成することができなかった。その原因としては、これまで「バリアフリー事業」の会場としていた大ホール（1004 席キャパ）から小ホール（293 席キャパ）への会場変更に伴う、スケール感の変動が本指標の設定時に反映できなかったことがあげられる。その中で地域の中核劇場として会場の規模感に沿った「バリアフリー事業」のモデル企画を発信・公開する事ができたことは評価したい。 【指標⑪】文化芸術の地産地消といえる視点で、地元の実演団体を支援するという観点が地域の文化拠点として重要であることと、地域と実演団体とがゆるやかにつながりそれを継続することで、将来その関係性が発展していく事も期待されるので、その点も意識していく。 【指標⑫】調査項目としては大変興味深い設問であったが、結果はいずれ目標値に至らなかった。文化芸術を通して地域の愛着心や関心度を高めるには、それ相応の時間も必要であることが示唆される。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
【指標①】こども達の多様な趣味嗜好と無限の将来性に配慮した、アウトリーチプログラムの 6 年周期によるジャンルローテーション（❶演劇（人形劇）、❷音楽、❸伝統芸能、❹演劇（人形劇）、❺舞踊、❻ニューパフォーマンス）	①普-01：令和 7 年度は伝統芸能分野でプログラムする	①普-01：令和 7 年度は伝統芸能分野でプログラムした
【指標②】若年層の利用者数（子どもの参加者数、中学生以下チケット・親子ペアチケット・U25 チケット販売数）	②普-04：200 人、普-05：60 人	②普-04：512 人、普-05：22 人
【指標③】アウトリーチ事業の実施数	③普-01：市内小中学校 10 校、近隣支援学校 2 校、計 26 公演、普 2：市内幼保育園 16 園、計 19 公演、普 03：1 ヵ所計 10 回	③普-01：市内小中学校 10 校、近隣支援学校 2 校、計 26 公演（回）実施、普 2：市内幼保育園 16 園、計 20 公演（回）実施、普 03：1 ヵ所計 10 回実施
【指標④】鑑賞サポートを実施する事業に対する支持率をアンケートで計測。	④普-05・06：支持率 95%以上とする	④普-05：100%、普-06：94.1% ※バリアフリー事業であることを「知っており支持したい」、「知らなかったが支持したい」と回答した割合
【指標⑤】社会的少数者に対する受容意識率をアンケートで計測	⑤普-05・06：受容意識率 50%以上とする	⑤普-05：50.9%、普-06：26.1% ※社会的少数者との交流に対して、「気にならない」と回答した割合
【指標⑥】障害者差別解消法に対応	⑥全事業：チラシ等案内物に関連する案内文を記載する、障がい者割引の無い事業については、一定の条件を満たす付き添い者を招待とするとともにその招待者 2 人を目標とする	⑥全事業へチラシに「鑑賞にあたり障がいに係るサポートが必要な方は事前にご相談ください」など案内文を記載した 障がい者割引の無い事業の、障がい者の付き添い者の招待は実績なし
【指標⑦】参加者において多世代交流が図れたかをアンケートで計測	⑦普-07：普段交流しない世代・初対面の人との交流が図れたとする評価が 75%以上とする	⑦普-07：100% ※交流が「十分にできた」、「少しできた」と回答した割合

（※3）・（※4）…R 7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	【指標①】子どもの多様な感性に配慮して、今年度もプログラムを展開できた。具体的な伝統芸能の事業プログラムとしては、三遊亭わん丈「日本の話芸「落語」を楽しむ」、井上松次郎「室町時代から続く伝統文化「狂言」に親しむ」、和太鼓ユニット光「打弾吹声を楽しむコンサート」、三遊亭わん丈・翁家勝丸「日本の話芸「落語や演芸」を楽しむ」、箏曲正絃社「日本の心～和楽器の響き」として実施し、どの事業も好評を得た。 【指標②】普-05 事業については達成できなかったものの、普-04 事業については、昨年度の経験を活かし、3 歳未満の入場無料の層も計測し目標を達成することができた。親世代の層に向けたインスタグラム広告（有料）の効果であると評価している。 【指標③】普-01・02 事業では、年度毎の実施回数の変動はあるものの、継続して市内の幼保育園、小中学校及び近隣の支援学校へと、くまなく子どもたちへ文化芸術体験の機会提供を実施できている。学校行事との兼ね合いの中で、無理のない実施計画は相互の良好な関係性の維持にとって重要であるため、事業成果の最大化を図るための適正化という点で今後も重要視していく。 【指標④】継続して実施する普-05 事業については、バリアフリー事業への支持率について、「知っており支持したい」「知らなかったが支持したい」とする層が 100%を占め事業に対する評価であると受け取っている。今回初めて字幕によるサポートを付した普-06 事業では、わずかに目標値に届かなかった。アンケートの意見では、「やさしい日本語だけでなく床本通りの字幕が欲しい」といった意見もあり、今後の企画としての可能性も感じられた。 【指標⑤】来場者へのアンケートによる障がいのある方の隣に座ったり話しかけたりしなければならないような場面において「気にならない」と回答した受容意識高い層は、普-05 事業で 50.9%、普-06 事業で 26.1%となり普-05 事業で目標値を達成した。【指標④】で示した理由と同様に、事業としてのメインとする対象者の違いが、大きく数値に影響したと示唆される。継続して実施するバリアフリー事業においても、年度ごとに変動がある指標であるため、数値と事業内容（出演者やジャンルなど）との関連性などにも注目したい。 【指標⑥】全ての事業において、鑑賞者としての障がいのある方を取りこぼさないとする劇場の姿勢という観点より、ささやかな「一文」の継続的な記載ではあるが、これを示せたものと評価したい。 付き添い者招待については、今回も実績を得られなかったが継続していく。 【指標⑦】市民参加型の事業においては、特に年齢の制限を設けない場合は、年代層毎の参加者数の違いはあるものの、幅広い層の応募があり今回もそうであった。アンケートではすべての参加者より、世代間・初対面者との交流が図れたと回答されたので、稽古期間中のプログラムとしても充実した内容であったと評価できる。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※2）
	・ ・ ・

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。

普-01　アートで育む“ひと・こころ・まち”プロジェクト「こどもアートふれあい事業」 for 小中学校
・本事業において新人職員とベテラン職員の組み合わせによる担当制とした。アウトリーチ事業として年間を通して20回以上にわたった事業経験は、制作業務の基礎を反復することにつながり、事業係としての制作能力向上に寄与した。

普-02　アートで育む“ひと・こころ・まち”プロジェクト「こどもアートふれあい事業」 for 幼保育園
・園児が人形劇鑑賞後、登場人物たちの気持ちを想像したり、物語をふくらませたりして、その後の園でのお遊戯会でも演じるなど実演芸術の楽しみにつながった。
・乳児のみの保育園で開催した際、園長先生が「もう少し大きい子たちと一緒に鑑賞する方が、乳児にも良い刺激になる」とお考えになり、近隣他園の園児招待をされていた。招待された園児はこの事業で2種の公演を鑑賞できた。
・私立幼稚園では入園前の子育て世帯が招待され、地域とのつながりや、ほっと一息付く機会として活用されている。

普-03　パティオ多文化共生事業2025　パティオちりゅう知立団地放課後クラブ
・子どもたちにワークショップ（以降「WS」）への参加を強制するのではなく、その時の気持ちを尊重し見守っていた所、題材にした絵本を一人で読み込んでいた子が、しばらくすると自分からWSの輪の中に入っていった光景が心に響いた。
・終盤に、一年間の成果披露として小さな劇発表をしたが、本番で急にやらない子が続出した。発表は、それも含めて関係者に見てもらった。終了後「見られるのは恥ずかしかった」など、自分の気持ちを伝えてくれたことが印象的だったと共に、子どもたちのペースを考慮せずに「発表」という成果をつくることを急ぎすぎてしまったと考えた。「子どもたちの日常におじゃまする」という感覚を忘れないようにしたい。

普-04　ちりゅうシアター・スタート2025　パティオDE夏休み
・0〜2歳未満の公演では開演のアナウンスは特にせず、いつの間にかパフォーマンスが始まる環境にしたことが、赤ちゃんへのストレスなく公演を楽しんでもらえることにつながった。
・親子向け公演においては、SNS広告（インスタグラム）の有効性が継続的に示されたので、今後も活用していく。

普-05パティオバリアフリー事業2025東京演劇集団風「バリアフリー演劇『ヘレン・ケラー 〜ひびき合うものたち』
・盲ろう者の方が、劇団あての歓迎メッセージを（ポスター）を作成してくれたため、前日は楽屋に、当日はロビーに掲示した。公演を大変楽しみにしてくれていた。
・中高生ボランティアスタッフ（ヤング・パティオウェーブ）の皆さんが、最前列の桟敷席で熱心に鑑賞され、終了後、手話通訳者に、どこで手話を勉強できるかなど、市内の手話サークルの紹介などもしていた。他、鑑賞アンケートでも、子どもが手話に興味を持つきっかけになったということがあった。

普-06　知ってふれあう知立の伝統芸
・人形のふれあいコーナーを実施した際に、長年山車文楽の絵を描かれている方が参加されて、人形を持つことは初めてということで、とても喜ばれており、出演者とも写真を撮影したり、交流されていたことが印象的だった。

普-07　ちりゅう大好きプロジェクト2025　第14回しみん劇　『いちにのさーん』
・当市への愛着心や関心を向上させることを目的とした本事業における取り組みの一つとして、キャストとして参加する市民・地域住民に対して、稽古スケジュールに「観光ガイドツアー」を入れて、知立市の名所や地域の魅力を共有した。この事を通して参加者の作品イメージの醸成に資することができた。

（2）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※1）・（※2）…R7年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※1）	貸館事業の利用率安定化による事業費原資の確保と助成金・協賛金の獲得を維持。	事業の特色・対象に応じた、広報手法選択の適正化を図っている。
目標(値)（※2）		
実績(値)	貸館事業の利用率安定化に加え利用料金査定のルール適正化により事業費原資の向上につなげるとともに、助成金・協賛金についても計画通り推進。	事業の特色・対象に応じた、広報手法選択の適正化に努めるとともに、特に子ども向け事業で有効なSNS広告について拡大を図って展開した。
団体の自己評価	利用料収入の向上は、事業運営の安定化に資すると評価する。協賛金獲得事業については、対象事業を精査して、適正な範囲に収めることができた。	適正に運営できたものと評価する。今後ますます重要と目される WEB 主体の広報の強化についても、推進でき効果も得られた。

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	市内民間音楽堂のほか、愛知県内および西三河エリアを中心とした連携・協力・支援を推進。	月 1 回の設置者担当課との情報交換を核に、劇場運営における密接な関係を継続。
目標(値)（※2）		
実績(値)	継続して市内民間音楽堂との連携を推進するとともに、愛知県内および西三河エリアを中心とした連携・協力・支援体制を維持・推進した。	月 1 回の設置者担当課との情報交換のほか、施設の老朽化や駐車場不足問題などの課題に対する情報交換などの機会を設定することができた。
団体の自己評価	連携先の変化はあるが、主に愛知県内、西三河エリアを中心に連携をすすめられた。今後は事業の共同制作など、広域的な連携も視野に入れる。	定期的な機会の他、必要に応じて情報交換を推進できる体制を築けたので、今後もコミュニケーションを密に、施設の課題に対応していく。

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ）～（セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	指定管理者制度に移行後、事務局長が芸術上の監督者として、その役割を担う。	財団を設立した知立市の職員がその任に就く理事長が劇場経営を統括する。
目標(値)（※2）		
実績(値)	引き続き事務局長が芸術上の監督者として、その役割を担った。	引き続き設置者の元職員である理事長が、劇場経営を統括し推進した。
団体の自己評価	芸術上の監督者として適正にその任を担い、事業プログラムの決定と推進に努めた。また、次世代への継承についても推進した。	代表理事として適正に経営責任を果たすとともに、任期満了をふまえた、次の代表理事候補の選定にも努めた。

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	新たな人材は、正職員として雇用し、運営体制の維持継承が図れるマルチな人材育成を推進。	事業係と管理係という組織体制のもと、職員の適性や人材育成の観点もふまえた職務分掌を実施。
目標(値)（※2）		
実績(値)	新規採用者は正職員として雇用し、運営体制の維持継承が図れるマルチな人材育成を推進している。	事業係と管理係という組織体制のもと、新規採用及び退職者による人材補充などもふまえ、職務分掌の再編と人材育成計画を推進した。
団体の自己評価	令和 7 年度において、職員 2 名の採用をしたので、適性確認をふまえた、配属先の決定と配属後の専門的な人材育成を推進した。	令和 8 年度において 3 名の退職者とそれに伴う新規採用者 2 名の加入が決定しているので、より計画的に組織の人材育成に努めることが課題である。

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	人員採用は欠員補充となっており、その際は新卒採用を前提とするため、若年層の採用となる。	リーダーという職務の女性はいるが、管理職登用には至っていない。
目標(値)（※2）		10～15 年計画での、管理職登用へ向けた人材養成に努める。
実績(値)	当年度に続き次年度も、新卒人材 2 名の採用となった。	理事長を除き、女性の管理職登用には至っていない。
団体の自己評価	若年層の雇用にはつながっているが、年代バランスについては今後の課題として捉え、次の採用機会には意識していく。	中期的な視点で、管理職登用へ向けた人材養成に引き続き努める。

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	育児・介護に関する規則等を定め、その規定の範囲内で運用している。	情報公開・個人情報規則等を定めその遵守にあたっては、研修等を活用しつつ運用している。
目標(値)（※2）		
実績(値)	育児・介護に関する規則等を定め、その規定の範囲内で運用した。	情報公開・個人情報規則等を定めその遵守し運用した。
団体の自己評価	それぞれの人生設計を尊重し、組織内で時に助け合う体制と意識醸成が図られていると評価できるので、この組織風土を維持・継続していく。	関連する研修に参加する機会が得られなかったため、日進月歩な情報社会に対応するため、必要な研修の参加に努め、情報セキュリティの向上等を図ることが課題である。

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	現状就業規則の条文のみで、当該項目に関する指針なし、研修の参加は実施・推奨している	汎用性の高い契約書類を整備し、それに基づき運用すると共に、必要により条文修正の対応を実施
目標(値)（※2）	指針策定に向けた調査及び、OFF-JT による研修について、今後も実現を図る	
実績(値)	研修参加で得たハラスメントガイドブックや動画サイトの紹介などを実施した。	整備された契約書類に基づき、必要により条文修正の対応を実施するなど、柔軟な対応も行い適正な運用を図ることができた。
団体の自己評価	組織内での継続的なハラスメント防止対策のための体制作りや、研修機会の探索などについて努め意識の向上につなげることが課題である。	フリーランス新法に代表される、劇場運営においても関連する法設置、法改正などにも速やかに対応できるよう情報収集に努める事が課題である。

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
【採択事業一覧】 普-01：アートで育む“ひと・こころ・まち”プロジェクト「こどもアートふれあい事業」 for 小中学校 普-02：アートで育む“ひと・こころ・まち”プロジェクト「こどもアートふれあい事業」 for 幼保育園 普-03：パティオ多文化共生事業 2025　パティオちりゅう知立団地放課後クラブ 普-04：ちりゅうシアター・スタート 2025　パティオ DE 夏休み 普-05：パティオバリアフリー事業 2025　東京演劇集団風「ヘレン・ケラー～ひびき合うものたち」 普-06：知ってふれあう知立の伝統芸能 普-07：ちりゅう大好きプロジェクト 2025　『いちにのさ-ん』 【自己評価】 ・「文化芸術活動の拠所として個々人並びに地域社会に貢献する」というミッションのもと、当会館の自主事業に関する 4 つのビジョン、知立市文化芸術基本条例の基本理念及び知立市文化芸術推進基本計画をふまえ、7 つの採択事業を推進し想定通りの成果があったと評価する。各採択事業においての、当会館ビジョン及び文化芸術推進基本計画等への主な対応状況は以下の通りで、いずれも当初の計画通り推進することができた。 普-01： ◆ビジョンⅠ：劇場事業の最適化を図る・・・芸術分野や対象世代などを単年度でなく中期的な視野でとらえたバランス感覚を重要視した企画構成を目指すことで、誰もが鑑賞・参加・創造できる環境を目指す。 ◆ビジョンⅢ：劇場発のアウトリーチを展開する・・・次代を担う子どもたちが文化芸術にふれあう機会を通して豊かな人間性・社会性・創造力が育まれるよう幼保育園・小中学校に文化芸術体験を届ける。 ◆「知立市文化芸術推進基本計画（令和 3 年 3 月）」基本施策 1「誰もが鑑賞・参加・創造できる環境づくり」・1-4「共生社会の実現」・①「就学前児童の親子を対象とした公演」並びに、重点施策・重点 1「子どもが多様な文化芸術に親しむことが出来るまち」に該当 ◆「知立市子ども条例（平成 24 年 9 月）」第 7 条（3）「文化、芸術、スポーツ及び社会経験を通じて豊かな人間性を育む経験が得られること。」に該当 普-02： ◆ビジョンⅠ：劇場事業の最適化を図る・・・芸術分野や対象世代などを単年度でなく中期的な視野でとらえたバランス感覚を重要視した企画構成を目指すことで、誰もが鑑賞・参加・創造できる環境を目指す。 ◆ビジョンⅢ：劇場発のアウトリーチを展開する・・・次代を担う子どもたちが文化芸術にふれあう機会を通して豊かな人間性・社会性・創造力が育まれるよう幼保育園・小中学校に文化芸術体験を届ける。 ◆「知立市文化芸術推進基本計画（令和 3 年 3 月）」基本施策 1「誰もが鑑賞・参加・創造できる環境づくり」・1-4「共生社会の実現」・①就学前児童の親子を対象とした公演並びに、重点施策・重点 1「子どもが多様な文化芸術に親しむことが出来るまち」に該当 ◆「知立市子ども条例（平成 24 年 9 月）」第 7 条（3）「文化、芸術、スポーツ及び社会経験を通じて豊かな人間性を育む経験が得られること。」に該当 普-03： ◆ビジョンⅠ：劇場事業の最適化を図る・・・芸術分野や対象世代などを単年度でなく中期的な視野でとらえたバランス感覚を重要視した企画構成を目指すことで、誰もが鑑賞・参加・創造できる環境を目指す。 ◆ビジョンⅣ：社会課題を意識した事業の推進・・・社会的少数者といわれる外国籍住民や障がいのある地域住民等との共生社会の実現に貢献するバリアフリー事業、多文化共生事業に取り組む。 ◆「知立市文化芸術推進基本計画（令和 3 年 3 月）」基本施策 1「誰もが鑑賞・参加・創造できる環境づくり」・1-4「共生社会の実現」・④障がい者・外国人市民等が参加・体験しやすい機会づくり、並びに、重点施策・重点 1「子どもが多様な文化芸術に親しむことが出来るまち」及び、重点 4「文化芸術を通じた多文化共生への試み」に該当 ◆「第 6 次知立市総合計画　改訂版（令和 2 年 4 月）」第 4 章「互いの人権を尊重し思いやりの心を育むまちづくり」施策 1「多文化共生」及び、知立市多文化共生プラン　2022-2026」（令和 4 年 3 月に該当 ◆「知立市子ども条例（平成 24 年 9 月）」第 18 条（1）「市は、子どもが安全で安心して過ごすことのできる居場所づくりに努めます。」（2）「市は、地域において、子どもが様々な世代の人々と触れ合い、多様で豊かな経験をすること

のできる場や機会の提供に努めます。」に該当

普-04：
◆ビジョンⅠ：劇場事業の最適化を図る・・・芸術分野や対象世代などを単年度でなく中期的な視野でとらえたバランス感覚を重要視した企画構成を目指すことで、誰もが鑑賞・参加・創造できる環境を目指す。
◆ビジョンⅣ：社会課題を意識した事業の推進・・・社会的少数者といわれる外国籍住民や障がいのある地域住民等との共生社会の実現に貢献するバリアフリー事業、多文化共生事業に取り組む。
◆「知立市文化芸術推進基本計画（令和３年３月）」基本施策１「誰もが鑑賞・参加・創造できる環境づくり」・1-1「鑑賞・体験の機会づくり」・①気軽に文化芸術にふれる機会づくり・②良質な作品の鑑賞機会の提供、1-4「共生社会の実現」・①就学前児童の親子を対象とした公演、並びに、重点施策・重点１「子どもが多様な文化芸術に親しむことが出来るまち」に該当
◆「知立市子ども条例（平成 24 年９月）」第７条（3）「文化、芸術、スポーツ及び社会経験を通じて豊かな人間性を育む経験が得られること。」に該当

普-05：
◆ビジョンⅠ：劇場事業の最適化を図る・・・芸術分野や対象世代などを単年度でなく中期的な視野でとらえたバランス感覚を重要視した企画構成を目指すことで、誰もが鑑賞・参加・創造できる環境を目指す。
◆ビジョンⅣ：社会課題を意識した事業の推進・・・社会的少数者といわれる外国籍住民や障がいのある地域住民等との共生社会の実現に貢献するバリアフリー事業、多文化共生事業に取り組む。
◆「知立市文化芸術推進基本計画（令和３年３月）」基本施策１「誰もが鑑賞・参加・創造できる環境づくり」・1-1「鑑賞・体験の機会づくり」・①気軽に文化芸術にふれる機会づくり・②良質な作品の鑑賞機会の提供、1-4「共生社会の実現」・④障がい者・外国人市民等が参加・体験しやすい機会づくり、並びに、重点施策・重点３「障がい者の文化活動の機会の充実」に該当
◆「第４期知立市障がい者計画『はっぴいぷらん』（令和３年３月）基本理念「わかりあい、支えあい、みんなでつくる地域共生社会」に対応。

普-06：
◆ビジョンⅠ：劇場事業の最適化を図る・・・芸術分野や対象世代などを単年度でなく中期的な視野でとらえたバランス感覚を重要視した企画構成を目指すことで、誰もが鑑賞・参加・創造できる環境を目指す。
◆ビジョンⅡ：地域の魅力の発信を推進する・・・文化遺産や住民参加型による創造事業の実施を通して、地域への愛着を醸成するとともに文化芸術を核とする緩やかなコミュニティの形成を進める。
◆「知立市文化芸術推進基本計画（令和３年３月）」基本施策１「誰もが鑑賞・参加・創造できる環境づくり」・1-1「鑑賞・体験の機会づくり」・①気軽に文化芸術にふれる機会づくり・⑥特色ある文化芸術事業の展開、1-2「創作・発表の機会づくり」・①文化芸術関連の各種講座の実施・③スキルアップの支援・④発表・交流の機会づくり、1-4「共生社会の実現」・④障がい者・外国人市民等が参加・体験しやすい機会づくり、及び基本施策２「歴史・文化財を大切にするまちづくり」・2-1「歴史・文化財の保存」・③山車文楽とからくりの活動・継承支援、並びに、重点施策・重点２「知立の山車文楽とからくりの継承・活用」に該当

普-07：
◆ビジョンⅠ：劇場事業の最適化を図る・・・芸術分野や対象世代などを単年度でなく中期的な視野でとらえたバランス感覚を重要視した企画構成を目指すことで、誰もが鑑賞・参加・創造できる環境を目指す。
◆ビジョンⅡ：地域の魅力の発信を推進する・・・文化遺産や住民参加型による創造事業の実施を通して、地域への愛着を醸成するとともに文化芸術を核とする緩やかなコミュニティの形成を進める。
◆「知立市文化芸術推進基本計画（令和３年３月）」基本施策１「誰もが鑑賞・参加・創造できる環境づくり」・1-1「鑑賞・体験の機会づくり」・⑥特色ある文化芸術事業の展開」、1-2「創作・発表の機会づくり」・①スキルアップの支援、1-3「文化芸術作品の創造」・①市民参加の作品創造②オリジナルの文化芸術作品の創造に該当

・地域の劇場として各事業推進のため、福祉・教育団体等の連携や地域・実演団体との連携や繋がりの充実を図る事が継続できた。その一方で、事業内容や規模、担当者の状況等で選択や集中するポイントを検討し、事業の最適化を図る事も有効であるため、その点を選択肢の一つとして捉えて事業にとってより効果的な展開の在り方を探っていく。

備考